

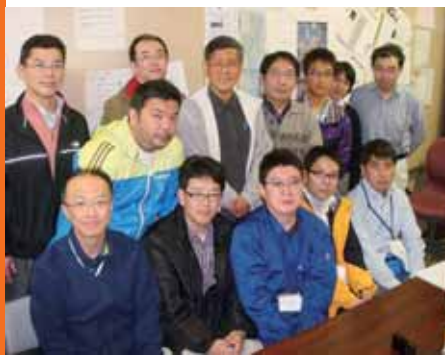
医療センター所長市川万邦先生 東日本大震災被災地医療支援活動報告

平成23年3月11日に世界でも稀に見る大地震、『東日本大震災』が発生しました。死者及び行方不明者は2万人を超え、1ヶ月以上たった現在も復旧がなかなか進まないのが現状です。

今回、医療センターの市川万邦先生が自治医科大学同窓会東日本大震災支援プロジェクト第三陣にて活動してきましたのでその活動報告をご紹介します。

今回市川先生は4月3日から4月9日までの1週間現地入りし、活動をしてきました。活動場所は登米市立米谷病院及び南三陸町ベイサイドアリーナを拠点とした2箇所です。

なお、被災地の様子については市川医師が写真に収めておりこのことを広く知っていただくため、本庁舎などにパネル展示しておりますのでぜひご覧ください。



自治医科大学同窓会
東日本震災支援プロジェクト
第3陣メンバー（前列中央:市川先生）



テント内で毎朝
ミーティング開催



登米市立米谷病院



ベイサイドアリーナ

登米市立米谷病院での活動

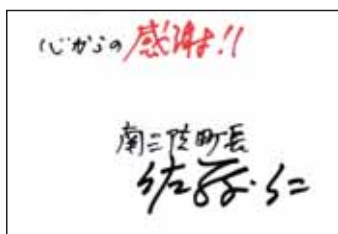
登米市立米谷病院は、津波により壊滅的被害を受けた南三陸町から一番近い病院です。電気・水道は利用できるものの、暖房用のボイラーなどの施設設備が故障しており、入院患者の移動も人力で行っていました。ここでのプロジェクトの役割は南三陸町からの外来患者の診察を担当しました。今後も患者数の増加が予想されます。

ベイサイドアリーナでの活動

南三陸町にある総合体育施設で南三陸町の1次避難所です。電気・ガス・水道は全滅で、電気については4月下旬には復旧見通しなもの、水道の復旧はまだまだといった状態でした。この町には約20の医療チームが現地入りし対応していました。ここでは医療統括本部に所属し医療チームの配置や物資調達等のコーディネート等を行いました。



骨組みだけの防災対策庁舎



南三陸町の町長さんから
お礼のメッセージが入った名刺を
いただきました

今回の活動への想い

今回の震災は想像を絶する規模および範囲に及んでいます。

私は南三陸町周辺しか見ることができまじんでしたがそれだけでも現場は視界一面瓦礫しかない状態で言葉が出ない状態でした。医療の支援は勿論ですが、それ以上に町をゼロから作っていかねばいけない状態です。

今後も医療のみでなく様々な長期的な支援が必要であると感じました。

また、こんな想定外の災害は起こりうるのだと感じました。南部町でも防災に対する再認識が必要であると考えます。

最後に、今回のプロジェクトに参加できたことは望月秀次郎町長の派遣の承諾、および南部町、南部診療所、万沢診療所の協力、身延山病院の先生方による代診、南部町内の医師の先生方の協力があったおかげです。この大変貴重な経験をさせて頂けたことに感謝の気持ちでいっぱいです。重ね重ね感謝いたします。

南部町医療センター
所長 市川 万邦



広報 なんぶ

編集：南部町役場 総務課

URL <http://www.town.nanbu.yamanashi.jp/>

山梨県南巨摩郡南部町富士28505番地2
TEL(0556)66-2111 FAX(0556)66-2190